

第2回横浜市戸塚区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会議事録	
日 時	令和3年3月29日(月) 午前10時から午前11時30分まで
開催場所	戸塚区役所8階大会議室AB
出席者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 西尾 敦史 (愛知東邦大学 人間健康学部 人間健康学科 教授)</p> <p>委員 新井 敏行 (名瀬連合町内会 会長)</p> <p>石井 徹 (汲沢地区民生委員児童委員協議会 会長)</p> <p>落合 清子 (戸塚区保健活動推進員会 副会長)</p> <p>中嶋 伴子 (とつか区民活動センター センター長)</p> <p>中瀬 明德 (東戸塚地域活動ホームひかり 施設長)</p> <p>福本 雅美 (戸塚区地域子育て支援拠点とっこの芽 施設長)</p> <p>鷲見 悦子 (東京地方税理士会 戸塚支部 会員)</p> <p>【事務局】</p> <p>戸塚区福祉保健課長 松本 真佐人</p> <p>戸塚区福祉保健課事業企画担当係長 渡辺 光</p> <p>戸塚区福祉保健課事業企画担当 秦野 良介 宮内 裕貴</p>
欠席者	なし
開催形態	公開 一部非公開(傍聴者なし)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員会の成立について 2 会議の公開について 3 審査手順及び各種照会結果の報告等について 4 面接審査 5 意見交換/講評 6 指定候補者の選定
決定事項	<p>指定管理者の候補者(以下「指定候補者」という。)及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者(以下「次点候補者」という。)として、次のとおり、横浜市戸塚区長に報告することとする。</p> <p>横浜市深谷俣野地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p> <p>指定候補者：社会福祉法人 聖母会</p> <p>次点候補者：なし</p>
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員会の成立について <p>議事に先立ち、委員8名のうち8名の出席があることから、過半数を超えているため、本委員会は成立とする。</p> 2 会議の公開について <p>事務局から会議の公開について、第1回選定委員会の決定事項のとおり、面接審査のプレゼンテーションについては公開とし、採点及び指定候補者の選定時は非公</p>

開とすることを確認した。

3 審査手順及び各種照会結果の報告等について

事務局から、本公募の結果、1団体から応募書類の提出があった旨を報告するとともに、次の2点について確認した。

(1) 面接審査の進め方及び質問項目の確認

(事務局)

- ・面接審査から指定候補者の選定までの全体の流れについて説明。
- ・応募団体の採点方法や評価基準項目等について説明。
- ・1団体のみのお応募となっているが、最低制限基準（「7前期の指定期間の実績」を除く満点の60%となる点。以下同じ。）に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。

(2) 応募団体が欠格事項に該当しないことの確認

(事務局)

- ・「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、横浜市財政局に市税納付状況等の確認を行った結果並びに、横浜市健康福祉局が第三者機関に対して行った財務評価委託の結果、応募団体について資格要件を満たしている旨を報告。

4 面接審査

(1) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(2) 主な質疑応答

(委員) 認知症の在宅介護について、どのように取り組んでいるか。

(団体) 令和2年度から介護者の集いを本格的に始動した。認知症の介護については、家族内で問題を抱え込んでしまう傾向があり、介護者間での情報交換や悩みを打ち明けられる場となっている。引き続き、介護者の集いを開催することと併せて、地域に向けても認知症の理解を深めるための講座の開催等を計画している。

(委員) 子どもが幼いうちは、地域との接点がある親子も、小学校以降地域活動から離れていってしまうという話を聞くが、学齢期の子どもに対しての地域の活動や地域ケアプラザとしての取組をどのように考えているか。

(団体) まだ、開設して3年の施設なので、幼児期から学童期にかけての経過を追いきれていない現状だが、住民が精力的に活動を行っている地域なので、地域内のNPO法人が取り組んでいる子どもの居場所を提供する取組に、地域ケアプラザとして出席させてもらうなど、勉強をさせていただいてい

る。福祉教育については、例えばキッズクラブの小学生に対して、認知症の講座を実施した。

(委員) 地域の中のNPO法人とは、協働の観点で地域ケアプラザとしてどのように関わっているのか。

(団体) 地域内の2つのNPO法人とは、常に情報交換をされていて、例えばNPO法人が把握した地域内の心配な方について地域ケアプラザを通じて支援に繋がっている。また、2法人は、横浜市が行っている横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業(サービスB)を受けており、事業計画や振り返り、今後の活動に関する検討にあたっては、年複数回打合せをする場を設けている。

5 意見交換/講評 及び

6 指定候補者の選定

面接審査及び選定委員のうち財務に関する有識者と事務局からの追加説明を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計、意見交換及び講評を行った。

横浜市深谷俣野地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点/満点
指定候補者	社会福祉法人 聖母会	1,984/2,360 点 うち最低制限基準対象得点 1,969/2,280 点
次点候補者	なし	

《審査講評》

- ・開所3年ではあるが、地域住民の協力を得ながら、事業を推進出来ている点は評価できる。情報共有については、地域ケアプラザとして単に情報を収集するだけでなく、整理して各種マップ等に加工するなど、「見える化」して情報提供に活用できている点は特筆すべき点だと考える。

- ・坂道が多いことと社会的引きこもりや孤立のリスクとの関連性についてなど、仮説を立ててデータ等に基づいて明らかにしていこうとする姿勢は評価できる。これまでの実績を踏まえて、今後も取組を実践していくことを期待する。

- ・区内でも範囲として一番大きな対象地区において、地区内の横浜市原宿地域ケアプラザとも協力して地域住民に寄り添った支援ができていている点は評価できる。また、地域の困っている方の目線に立った広報物の作成等を行えている点も良い。

- ・様々な地域の事業者等との連携なども図られており、高齢者の方々も安心して生活ができる環境づくりに貢献できていると思う。

- ・新型コロナウイルス感染症の流行の影響などで今後も引き続き地域の活動などを工夫していかなくてはならない状況が続くことが想定される中で、直接会う交流だけではなく、事業計画にあるような広報紙の発行などを通して交流するような事業展開も

	<p>期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書等に自立支援協議会との関わりについての記述がなかったため、今後の障害分野に関しての事業展開や関係機関との協働も期待したい。 ・駅からも遠く支援がなかなか届きづらいと思われがちであるが、それらの課題を住民同士でどのようにして解決していくかを考える土壌が出来ている地域なので、住民のみでは難しい情報発信のサポートなどにも更に注力して欲しい。 <p>《その他の意見》</p> <p>（委員）他の地域ケアプラザについても言えることだと思うが、なかなか生活支援コーディネーターが定着しない点が気になっている。</p> <p>（事務局）度々課題として挙げられている点であり、その理由のひとつに求められる役割が大きい反面、地域に合わせて業務内容も様々なため、対応の仕方を、研修等を通して示し切れていない事情が挙げられる。引き続き、第1層生活支援コーディネーターを配置している区社会福祉協議会とも情報交換をしながら、単に短期的な成果を求めるのではなく、長い視点で支援していければと考えている。</p> <p>《評価結果》</p> <p>得点は、いずれも最低制限基準の60%以上であるため、選定委員会として指定候補者として選定することを決定する。</p> <p>7 閉会</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>1 資料</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接審査について (2) 各種照会結果について (3) 施設への応募関係書類（一式） (4) 財務分析結果報告書 (5) 前期の指定管理業務の実績報告書 (6) 採点表 <p>2 特記事項</p> <p>特になし</p>